

特集

車いす点検してまますか

車いすが多い「ひやりはと」。は、ベッドなどから移乗する時に車いすが後ろにずれ臀部から落下してしまうもので、圧迫骨折に至る事故も起きている。こうした事故は「タイヤの空気圧が足りない」などメンテナンス不足で起きることが多いため、普段からしっかり点検することが大切だ。また、点検・整備の仕方から分からないことは、車いす安全整備士など専門家に相談しよう。



タイヤの空気圧が足りないと車いすのブレーキが効かずに転倒することが...



高圧用や電動の空気入れがある
と便利だ。1〜2日たつと空気は
抜ける「スロパンク」があるの
で、使う前必ず確認する。



車いすはタイヤ本体にブレーキを当てて止めるので、空気圧が足りないや圧着が弱くなり、効きが悪くなる。適正な空気圧はタイヤの太さなどで違うため、タイヤ側面に記載されている空気圧になるように空気を入れる。



空気は抜けている場合は、パンクや虫ムシの劣化を確認する。修理方法は自転車と同じで、自転車にも頼める。

タイヤ



タイヤの蓋が摩擦していてもブレーキの効きが弱くなる。溝の摩擦や細かなヒビがないか点検する。摩擦やヒビがあるか中のチューブも劣化しているの、タイヤ全体を交換する。

足乗せ板の固定ネジが緩んでいると板が自然に下がり、地面や段差につきまくることがある。上げた位置に板が固定されない足乗せ板を乗せたまま降りる形になり、下がった板を支持にテコの原理で前側に放り出されることがある。ネジの緩みを点検し、緩んでいたら締める。

シートがたるんでいると適切な座位姿勢をとるのが難しいため、褥瘡の原因になり、側面の拘縮などの二次障害を生みませたりする。たるんでいると交換する。

座面・背部シート



クッション、フレーム

クッションの下に食べかすや吐瀉物などが残ってカビが生えたり、虫がいたりすることがあるので定期的にケルコイル消毒する。また、金属フレームのサビや汚れは自転車と同様の方法で取り除く。スプレー系のサビ取り剤は潤滑系に影響を及ぼす恐れがあるので要所に吹きかける。



フットサポート



ブレーキ

ブレーキワイヤーが緩むと効きが弱くなる。居住3カ月に1回はブレーキレバーを握って効き具合を点検し、緩んでいたらアジャスターホルトナットで調整する。



前輪車軸



17Mや髪の毛などが絡まると駆動が重くなり、自立を阻害したり、間接的に身体拘束状態になったりするので、ピンセットなどで取り除く。

機器の安全性とは

鈴木 寿郎

日本福祉用具評価センター (JASPEC) 副理事長



それ以外の安全な機器を定めるのは良いですが、残念ながら、日本には安全性を担保する基準がありません。JISマークは天竺生業の工業製品が対象で、介護や耐久性等で安全性試験をクリア

試験のデータを提出して合格した製品では信頼性に差があります。JIS以外に製品安全協会のSCマーク、テクノエド協会のQAPマークなどありますが、いずれも強制力はありません。海外メーカーの調整機能付き車いすには、JIS ISO(国際標準化機構)の規格に準拠したCEマーク(四角圏)が付いています。取り扱い区分も医療器具なので厳しい安全性試験が科されます。CEマークがあれば安全性は担保されます。国内メーカーの製品Oに類似製品検査を行

福祉機器はどれもいつまで安全と思っていなくても、製品の欠陥に備えて安全に使う。製品評価機構の事故種別によっても、長期使用(2年以上)に起きた機器の事故は、車いすが11件(死者4人、介護ベッドが6件(自入))ありましたが、これらは氷山の一角です。事故の原因は①製品の欠陥に伴う事故、②誤った使用による事故、③不注意による事故、④不意に起きた事故(原因不明)があります。

設計・製造過程・表示など、製品の欠陥に備えて安全に使う。製品評価機構の事故種別によっても、長期使用(2年以上)に起きた機器の事故は、車いすが11件(死者4人、介護ベッドが6件(自入))ありましたが、これらは氷山の一角です。事故の原因は①製品の欠陥に伴う事故、②誤った使用による事故、③不注意による事故、④不意に起きた事故(原因不明)があります。

を指導している製品を選ぶようにしたいものの、JISには含まれません。JIS以外の製品は、メーカーが安全性能を担保する。国内メーカーの製品Oに類似製品検査を行